

2007.9.15|土|—10.28|日|

開館時間=9:00-17:00(入館は16:30まで) 休館日=9月18日[火]・25日[火]・10月1日[月]・9日[火]・15日[月]・22日[月] 入場料=一般800円(600円)、高大生600円(400円)、中学生以下は入場無料。()内は前売及び20名以上の団体料金。※身体障害者・精神障害者保健福祉・療育の各手帳の所持者及び付き添いの方(1名)は入場無料。手帳をご持参ください。 主催=刈谷市、刈谷市教育委員会、刈谷市美術館、朝日新聞社 後援=愛知県教育委員会 企画協力=財団法人日動美術財団

画家 岸田劉生 の軌跡

刈谷市美術館

Kariya City Art Museum

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5
TEL.0566-23-1636 FAX.0566-26-0511
http://www.city.kariya.lg.jp/museum/



—油彩画、装丁画、水彩画などを中心に

Ryusei Kishida

同時開催：岸田劉生と愛美社の画家たち



《麗子肖像(麗子五歳之像)》1918年 東京国立近代美術館蔵

麗子、七変化。この秋、愛知刈谷に在る。

画家 岸田劉生の軌跡
入場割引券

本券をチケット売場へお持ちください。
本券1枚につき1名、当日料金から100円割引いたします。
なお、他の割引との併用はできません。

画家 岸田劉生の軌跡
入場割引券

本券をチケット売場へお持ちください。
本券1枚につき1名、当日料金から100円割引いたします。
なお、他の割引との併用はできません。

愛娘をモデルに描いた〈麗子像〉で知られる岸田劉生(1891-1929)は、近代の日本美術において最も個性的な画家の一人です。38歳という短い生涯ながら、その画業は大きな変貌をとげました。

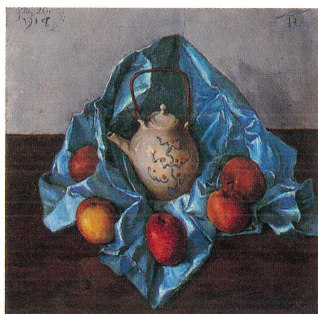
岸田劉生は明治24年に東京に生まれ、黒田清輝に外光派の画風を学び、20歳の時に文芸雑誌『白樺』の同人、武者小路実篤らとの交友によって、ゴッホやセザンヌを知り影響を受けました。また、在野の小規模な美術団体「草土社」のリーダーとして活躍し、日本洋画壇に大きな業績を残しました。その後、北方ルネサンスの絵画に傾倒し、デューラーからの「クラシックの感化」が強まり、精

緻な写実を追及し、物や人物の存在を深く見つめる「内なる美」の探求へと進みました。やがて宋元画や初期肉筆浮世絵などの東洋的な美に心ひかれて、それらを自らの芸術に反映させようと試みるようになりました。

本展覧会では、笠間日動美術館の所蔵作品に特別出品を加え、岸田劉生の初期から晩年までの軌跡をたどります。代表的な〈麗子像〉の油彩画をはじめ、麗子が随所にちりばめられた装丁画や水彩画、晩年の日本画などの130余点により、劉生芸術をご紹介します。



《自画像(椿君に贈る自画像)》1914年
東京都現代美術館蔵



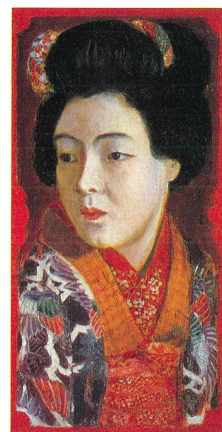
《静物(土瓶とシユスの布と林檎)》1917年
個人蔵



《村娘之図》1919年
笠間日動美術館蔵



《『劉生図案画集』奥付》1921年
笠間日動美術館蔵



《麗子十六歳之像》1929年
ふくやま美術館蔵

同時開催 岸田劉生と愛美社の画家たち



大澤鉦一郎《田舎の少年》
1919年 名古屋市美術館蔵



宮脇晴《自画像(17才)》
1919年 豊田市美術館蔵

名古屋と岸田劉生、あるいは草土社とは関わりがあるといえます。草土社名古屋展は大正6年に愛知県商品陳列館で、大正10年には十一屋呉服店で開かれ、同年名古屋を訪れた劉生は草土社美術講演会(現椚山女学園講堂)で「装飾と模倣」について話しました。そして、大正12年の関東大震災で鶴沼の家を失った劉生が京都に転居する前、約半月間身を寄せるために滞在し、震災後初めて絵筆を取るようになった地も名古屋でした。

また、名古屋生まれの大澤鉦一郎(1893-1973)は、大正6年の草土社第1回名古屋展にわずか3日間の開催ながら、毎日足を運びました。自らの精神性と近い世界観を感じたであろう大澤は、劉生に対抗するように、同年、萬代比佐志、森馨之助、鶴城繁、藤井外喜雄、山田睦三郎、水野正一(1921年には参加)と「愛美社」を結成しました。大正10年の第3回展を最後に愛美社は自然解散してしましますが、細密描写による作風を深化させました。このような名古屋における岸田劉生の動向と愛美社の画家たちの活動を当時の作品や資料などをご紹介します。

会期中の催し物

1. 講演会

①「岸田劉生と愛知」

9月24日[月・祝] 13:30→15:00

講師：浅野徹氏(名古屋芸術大学教授)

定員：100名(先着順) 美術館2階研修室

*聴講無料(高校生以上は要展覧会チケット)

②「岸田劉生を読む」

10月21日[日] 13:30→15:00

講師：山田諭氏(名古屋美術学芸員)

定員：100名(先着順) 美術館2階研修室

*聴講無料(高校生以上は要展覧会チケット)

2. ギャラリー・トーク

9月26日[水]・10月2日[火]、16日[火]、23日[火]

13:30から約1時間

担当学芸員による展覧会解説ツアーです。ご希望の方は、当日1階受付付近にお集まりください。

*聴講無料(要展覧会チケット)

3. 期間限定カフェ「偕楽亭」

9月16日[日]、17日[月・祝]・10月6日[土]、7日[日]

11:00→15:00

美術館隣の茶室(佐喜知庵)では、お飲み物とお菓子を楽しんでいただく、期間限定カフェ「偕楽亭」を開催します。展覧会鑑賞後、ゆったりとしたくつろぎの時間をお過ごしください。なお、開催日のお呈茶(お抹茶)はお休みとなります。

4. つくる&みるプログラム

I「ジブンを描く」

9月23日[日] ① 10:00→12:00 ② 13:30→15:30

対象：小学1年生→小学3年生/定員：各24名

参加費：200円(レクリエーション保険代+材料費)

申込締切=9月14日[金]必着

内容=自分の顔をじっくりと観察して、岸田劉生のように細密に描いてみましょう。

II「この世でひとつだけのブックカバー」

10月7日[日] 10:00→15:30

対象：小学4年生→大人/定員：24名

参加費：300円(レクリエーション保険代+材料費)

*高校生以上は要展覧会チケット

申込締切=9月28日[金]必着

内容=岸田劉生は「白樺」などの装丁も手がけました。展覧会を鑑賞した後、お気に入りの本を入れるブックカバーをつくります。

講師：各回すべて山口ももこさん(美術家)

申し込み方法：「往復はがき」か「FAX」にて、参加したいプログラム名(Iは時間帯も明記)、参加者名(ふりがな)、住所、TEL/FAX、年齢(学年、学校名、保護者名)をご記入のうえ美術館までお申し込みください。なお、返信用はがきにも住所と名前を記入してください。定員を超えた場合は抽選とし、結果をお知らせします。

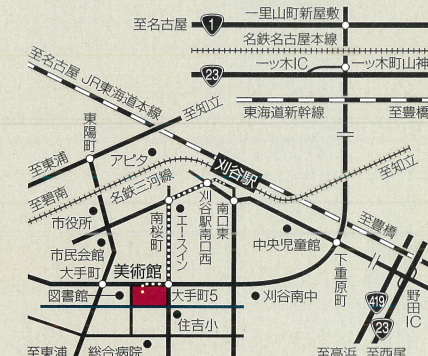
あて先：〒448-0852 刈谷市住吉町4-5

刈谷市美術館 FAX.0566-26-0511

入場料	一般	高大生	中学生以下
当日	800円	600円	無料
前売・団体	600円	400円	

前売券の販売先：サークルKサンクス(愛知・岐阜・三重・長野県下の各店舗)、チケットぴあ、ファミリーマート他でお求めください。前売券の販売は、9月14日[金]まで。

*身体障害者・精神障害者保健福祉・療育の各手帳所持者及び付き添いの方(1名)は入場無料。手帳をご持参ください。



[交通のご案内]

◎電車：JR、名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口から徒歩10分

※「刈谷駅」から快速で約15分

◎車：名古屋方面より=国道23号線(知立バイパス)

「一ツ木IC」から約5km 駐車場60台(無料)

刈谷市美術館 Kariya City Art Museum
〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地 TEL.0566-23-1636
FAX.0566-26-0511 http://www.city.kariya.lg.jp/museum/

画家 岸田劉生の軌跡 —— 油彩画、装丁画、水彩画などを中心に

Ryusei Kishida